

メルロ＝ポンティ サークル第13回大会

プログラム

場所：学習院大学 学習院創立百周年記念会館3階・4階

日時：2006年9月18日（月・祝）

- 9:30～10:10 幼少期・想像力・芸術——イデイス・コップとメルロ＝ポンティ現象学
落合芳（関西学院大学）
- 10:10～10:50 第三項に開かれて新しさをとらえる身体
西岡けいこ（香川大学）
- 11:00～11:40 知覚とスタイル
八幡恵一（東京大学）
- 11:40～12:20 身体図式と断片的な身体——エレメントの現象学のための一試論
澤田哲生（パリ第12大学）

<昼食>

- 13:00～13:20 ビジネス・ミーティング
- 13:20～14:00 身体、イマージュ（仮題） 増田靖彦（早稲田大学）
- 14:00～14:40 「身体」が意味するもの——ベルクソンとメルロー＝ポンティの遠さと近しさ
東昌紀（近畿大学）

<休憩>

シンポジウム<メルロ＝ポンティとベルクソン>

司会：杉山直樹・松葉祥一

- 14:50～15:20 伊藤泰雄「注意について——マルブランシュ、ベルクソン、メルロ・ポンティを読みながら——」
- 15:20～15:50 川瀬雅也「自然と文化——メルロ＝ポンティとベルクソン——」
- 15:50～16:20 檜垣立哉「ベルクソンとメルロ＝ポンティにおける非人称的・前人称的領野の探求」

<休憩>

- 16:30～17:00 村山達也「ベルクソンとメルロ＝ポンティにおける歴史と主体性」
- 17:00～18:00 討論会

※提題順未定のため、提題者50音順。

- 18:15～20:00 ビュッフエ・パーティ（三華 豊島区目白3-5-13 TEL:03-3950-2434）
メルロ＝ポンティ・サークル事務局 〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4
神戸市看護大学 松葉研究室内 Home Page:<http://www.copula.com/merleau>
来聴歓迎

※ベルクソン研究会では、午前中に下記の発表が予定されています。

10:00～11:00 西山晃生「ベルクソンにおける信の問題」

11:10～12:10 藤田尚志「記憶の場所、場所の記憶 ベルクソンとメルロ＝ポンティ」

シンポジウム レジюме

◆伊藤泰雄

「注意について —マルブランシュ、ベルクソン、メルロ・ポンティを読みながら—」

マルブランシュの受動性の哲学において、「注意」は精神の最小限の〈主体性〉を担っている。この意味での「注意」が、ベルクソンとメルロ・ポンティの哲学においてどのように理解されているかを検討することにより、「注意」についての理解を深めたい。ベルクソンの「図式」とメルロ・ポンティの身体図式との比較検討、メルロ・ポンティにおける注意と身体図式との関係についての考察が鍵となるだろう。

◆川瀬 雅也（佐世保工業高等専門学校）

「自然と文化——メルロ＝ポンティとベルクソン——」

メルロ＝ポンティのベルクソン解釈は、1950年代以降、自らの自然の哲学の立場にたって、ベルクソン哲学を再検討する形で展開されている。しかし、ベルクソンの哲学のうちには、いわゆる「自然の哲学」とは異なる観点を認めることが可能である。その観点を、ここではあえて「文化の哲学」として理解して、メルロ＝ポンティとベルクソンという二人の哲学者の思想を、自然と文化という観点から捉え直すことを試みる。

◆檜垣立哉（大阪大学）

「ベルクソンとメルロ＝ポンティにおける非人称的・前人称的領野の探求」

ベルクソンもメルロ＝ポンティも非人称的・前人称的領野を検討の対象としていた。そうした視線自身は、サルトルにも、そしてドゥルーズにも通じていくフランス20世紀思想の大きな流れを形成している。この領野に賭けられていたものはなにか、それはいかなる方法論の違いと交錯を産み、なにに展開していくのか。そこにベルクソンとメルロ＝ポンティの思考の交錯しつつ離反するポイントを探り、その思考の方向性を整理する。

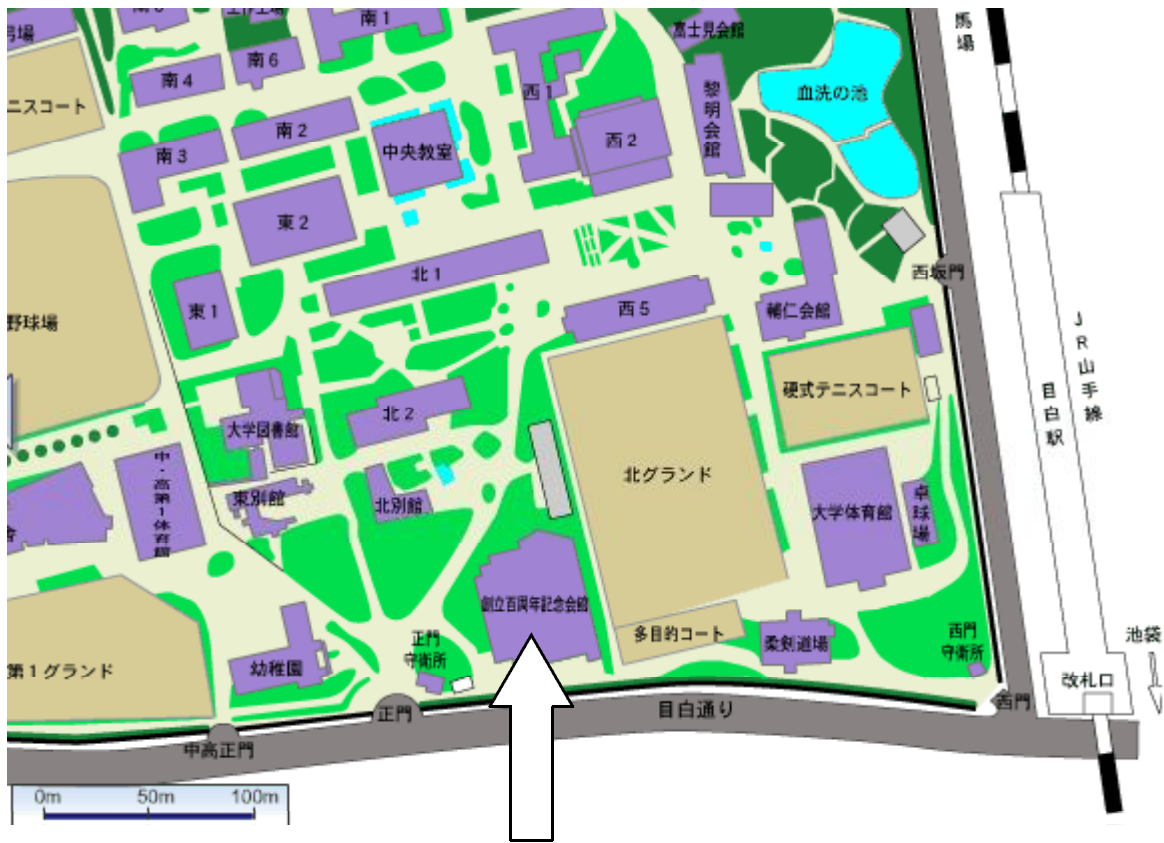
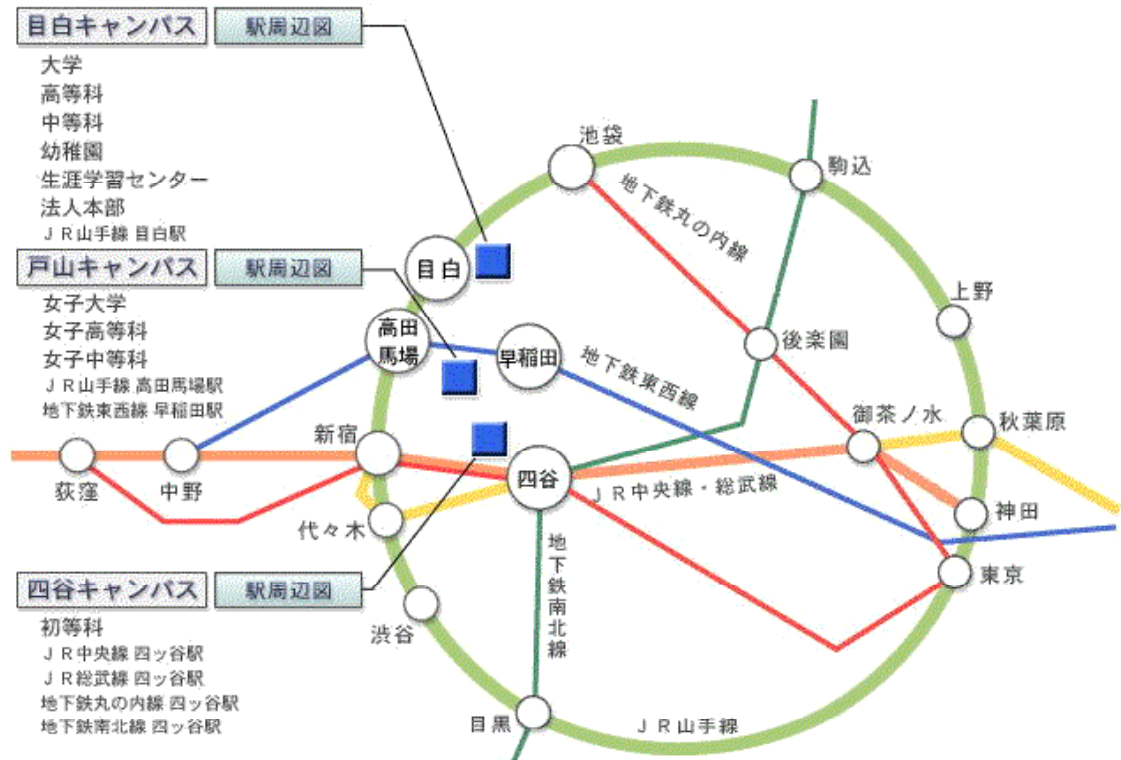
◆村山達也（慶應義塾大学）

「ベルクソンとメルロ＝ポンティにおける歴史と主体性」

大きな歴史の流れの中における個人の自由をいかに捉えるべきか。歴史と主体性との関係をどう考えるべきか。些か素朴にも思えるこの問いをベルクソンとメルロ＝ポンティの政治哲学・歴史哲学において考察することで、彼らの自由論が政治や歴史といった場面でどのような共通点と差異を見せるのかを検討する。また、以上の検討を踏まえて、政治や歴史をめぐる両者の考察が現代の議論に対して持ちうる意義を取り出すことを試みる。

会場案合図

交通路線図



学習院創立百周年記念会館 3・4階